

世界 糖尿病デー

2019

11 / 14

World Diabetes Day Committee in Japan

このように急増する糖尿病の克服のため、国際連合（国連）は、「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を2006年12月20日に国連総会議で採択しました。同時に、インスリンの発見者であるバンチング博士の誕生日である11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進することを呼びかけました。国連が単一の疾患に対してこのような決議をすることは、AIDS（HIV感染）に次いで2番目のことです。11月14日は国連及び主要国で様々なイベントが開催されます。我国でも、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会が中心となって、国民の皆様呼びかけ活動の輪を広げる活動をしています。

(<http://www.wddj.jp/>)

この活動のシンボルカラーはブルーに定められました。11月14日夜は世界中の著名な建造物などがブルーにライトアップされます。昨年海外では、米国エンパイア・ステート・ビル（ニューヨーク）、シアーズ・タワー（シカゴ）、カナダナイアガラ滝、CNタワー（トロント）、バンティング・ミュージアム、英国ロンドンアイ（観覧車）、シェル・タワー（ロンドン）、フリンダース通り駅（メルボルン）、ピサの斜塔（イタリア）、大噴水「Jet d'Eau」（スイス）、ブリュッセル・シティ・ホール（ベルギー）などがライトアップされます。日本国内でも、全国各地の著名な施設がブルーにライトアップされました。

岡山県内では、岡山城や備中国分寺、旧遷喬尋常小学校、城西浪漫館（旧中島病院本館）、光生病院等にブルーライトアップされ、岡山駅前の岡山ターミナルスクエアビルでは“世界糖尿病デー”のシンボルのブルーサークルをライトアップいたします。また、岡山市内5ヶ所の電光掲示板に電光ニュースを流すことに致します。

国連がAIDSと同様の危機感を表明した「糖尿病」の克服に向けて、私たちはこれからも患者さんとともに全力で取り組んで参ります。

「世界糖尿病デー」の趣旨

現在、世界中で糖尿病が増えています。

既に4億人が糖尿病を患い、2040年までに6億4,000万人に達すると予想されています。我が国でも糖尿病患者数は約1,000万人に達したと推計され、予備軍を合わせると2,000万人に上ります。



岡山城



岡山ターミナルスクエアビル



城西浪漫館（旧中島病院本館）



旧遷喬尋常小学校



備中国分寺



光生病院